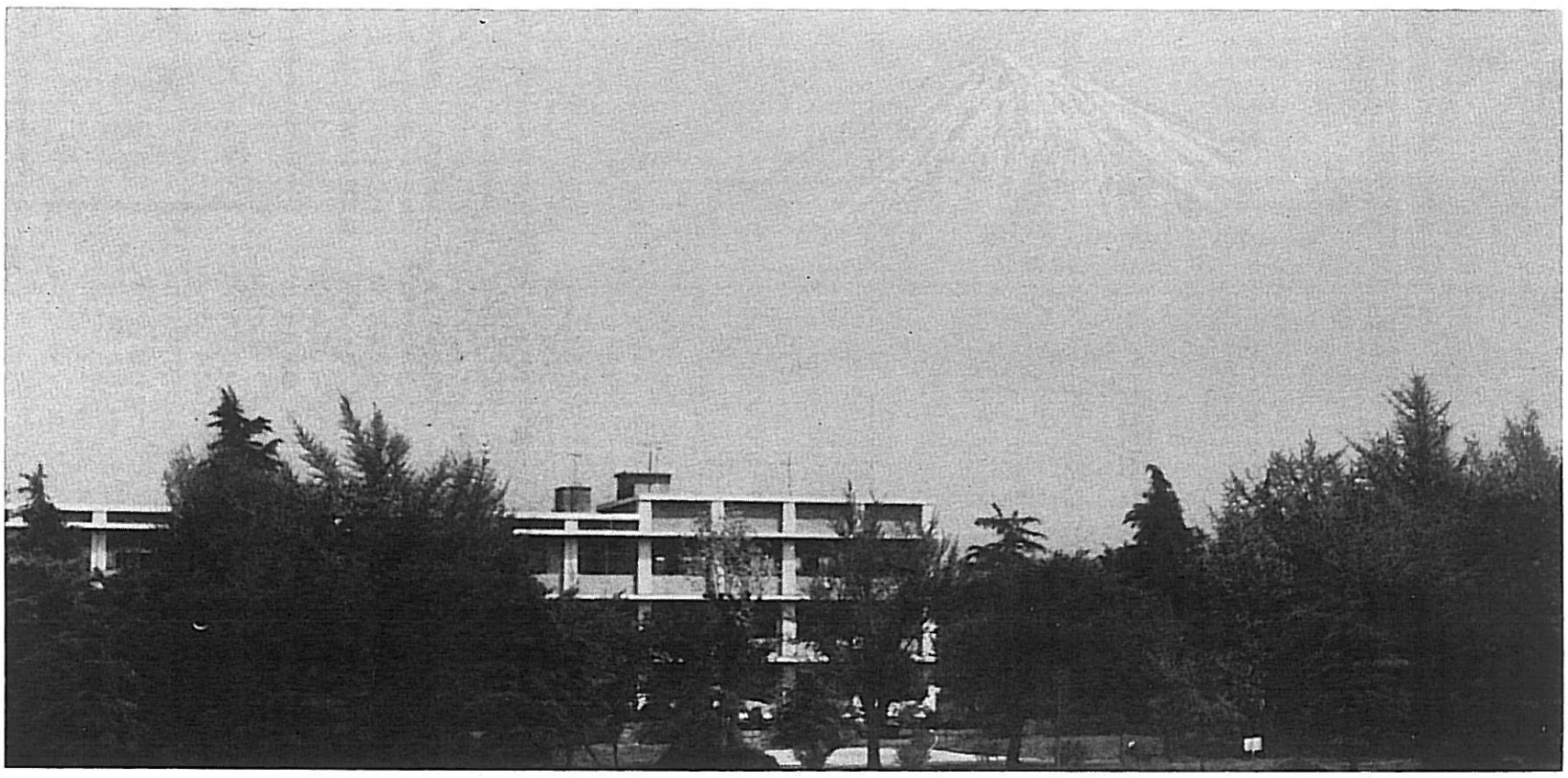
校訓
明信覇
朗念気

北嶺会だより

第3号
発行 県立富士宮北高等学校同窓会
北嶺会
編集 北嶺会広報部
部長 井出元一



創立精神の開花

協和製紙株式会社

社長　渡辺秀夫（商一）
工場長　塩川喜彦（工一）

（渡辺氏）

昭和十七年十二月、大宮商工学校第一回卒業式の日校庭の片隅で語り合っている二人の青年がいた。「世の中に出たら何か事業を興そうではないか、君は工業出だから技術を身につけてくれ」「では君は資金面の事を……」約束し合って別れた一人は富士税務署を経て昭和二十九年には独立して原料商に、もう一人は東京物理学校（現東京理科大学）を卒えた後大昭和製紙に入り、当時（昭和二十九年）日本では初めてと言われたオンマシン・エヤナイフコート技術を在日ドイツ人と共に手がけた後、二人の若き日の夢はいよいよ昭和三十四年四月、現実にレールに乗る事になった。

前者が協和製紙社長、渡辺秀夫氏、そして後者が工場長の塩川喜彦氏である事は今更申す迄もない。

（塩川氏）

当時野中街道を通る人々は田圃の中にトタン葺きの何か工場らしいものが出来たと囁き合ったという。事実45吋取巾の丸網二本、ドライヤー二本の白段ボール原紙日産6tのマシン一台と言うのがこの工場のスタートであった。

その後苦節十八年、ノーコートマシン一台（日産30t）、コート白板マシン一台（日産30t）、ラミネータ（加工機）、二色刷り印刷機、打抜機、製函機を備えた加工部門を持つ工場にまでのし上げて来たのである。

現在資本金二千万円、従業員九十三名と製紙工場としてはお義理にも大工場とは言えないかも知れないが、要はその体質に注目して戴きたい。来期売上予想二十余億、配当五割、自己資本比率26％という「超優良会社」である。紙市況の中で特に構造不況の最たるものと言われる白板を抄いていながら当社の製品は注文殺到という事である。

もとより始めから潤沢な資金の裏付けがあって始めたのではなく、販路の開拓にもネームバリューのない当社としては人一倍の苦労があった。マシンの建設にしても特定の親企業の技術的指導等あろう筈がない。自ら図面を引き土木作業員と共にコンクリートを打って築き上げた工場である。

社長は創業以来五ヵ年計画を樹て、五年毎に会社の規模を過大な借入金に頼らず拡大する堅実方針をとって来た。これらの総合されたものが不況に強い現在の協和製紙を作り上げたものと思われる。

北高の前身である大宮商工学校の創設者「望月軍四郎先生」は、郷土に実業の士の養成を祈念にして母校を創設された。親からの遺業でなく、自らの努力により花を開かせたこの両氏の実績は正に「望月精神」の精華と言うべきであろう。

その歩まんとする道が何んであれ、若くして期する処ある者に、その結実を与うるものであるという後輩への道しるべを二人は示唆しているのではなかろうか。

（尚、渡辺氏は富士宮産業廃棄物処理組合副会長としても活躍中である事を附記します）

一期一会を処世訓

大東京火災海上保険株式会社

専務取締役　塩川嘉彦（商一）

本校卒業生で、現在中央で活躍している方々は数多い。その中から今回は塩川嘉彦氏を紹介したいと思う。同君は、大正十五年富士宮市中央町に生まれた。実家は中央一番街に大きな店舗をかまえているサンワ洋品店である。彼は昭和十三年に商業科第一回生として入学、昭和17年12月繰上げ卒業後、早稲田大学経済学部に入学し、昭和26年卒業、直ちに大東京火災海上保険会社に入社し、現在総合企画室など本部担当役員である。彼の一挙一動は単に同社の将来にかかわりをもつだけでなく、大なり小なり日本の経済界に影響を与えているといってよいだろう。第2回北嶺会総会の時の講演にも、彼の日本経済の将来を思う気持が伺えた。

さて、現在の地位に至るまでには並々ならぬ努力があったことと思い、この点を伺うと、「私は努力家ではない」と言われ、しかしと言をついて「私は一期一会ということばから人生の一瞬一瞬を大切にしてきました。このことは孔子の『夕べに死すとも可なり』ということばに通じます」といった。味い深いことばである。

関東北嶺会杉沢支部長のお話によると、塩川氏の仕事に対する情熱は並々ならぬものがあり、その仕事ぶりは積極かつ綿密で実戦的であるとのことである。その忙がしい彼が、杉沢氏や在京の多数の同窓生と関東北嶺会をつくったのである。一昨年の発会式には本部からも会長以下数名招かれて参列させて頂いたが、支部の方々の気迫に、こちらは呑まれてしまった感があった。彼はこの会の重要なメンバーであり、杉沢支部長の良きパートナーとして活躍されている。彼はこの会が富士宮の地を離れて異郷の地で人生と闘っている後輩の方々に少しでも役立つ会に発展するよう願っているといっていた。ありがたいことである。

こんな忙がしい彼であるから、趣味に没頭することはできないが、ゴルフの腕前はH23であり、自動車でドライブするのが楽しみだそうだ。

最後に彼のご健祥を心からお祈り致します。

（品川区大崎四丁目11―30　電四九二―六〇五〇）

北嶺会の動き

昭和五十一年

◇昭和51年5月20日　評議員、代議員改選依頼　◇6月2日　三役会　◇6月4日　総会通知発送　◇6月12日　総会（北高―視聴覚室）。高山・内田両氏表彰。講演、山本勝己氏。総会出席者数、四十六名　◇7月14日　北高相撲部員中島和男君、ハワイ遠征壮行会開催、会長出席。

昭和五十二年

◇昭和52年2月15日　三役会、昭和52年度事業計画審議。校外土地問題その後の経過、報告。関東支部近況報告（杉沢副支部長より）。芝川町議選立候補の北嶺会員激励の件。昭和52年度総会に講師として中尾光男氏招聘の件。同窓会入会式の件　◇2月28日　北嶺会入会式。北高。出席者会長、菊池、杉沢、森本、井出各副会長。田中幹事長稲葉副幹事長他　◇3月16日　経済講演会。富士宮商工会議所ホールにて。「南米を旅して」と題して望月玉三先生講演。終って会長ら玉三先生を北高にご案内しばし歓談　◇3月19日　第3号「北嶺会だより」編集委員会。増田ビルにて。会長、井出広報部長、川島、渡辺英賢、田中広報部員出席新たに「同窓生の人物素描」欄設ける　◇4月10日　芝川町議選立候補者激励。会長、戸塚氏　◇4月12日　同町議選に全員当選（宇佐美孝彦、村野道久、滝川文雄、高山新一の各氏）　◇4月16日　第2回編集委員会。会長、井出川島、渡辺英、宮川、田中出席　◇5月11日　三役会

昭和51年度 各部成績

（6月2日以降）

▼**相撲部**　県高校総体＝団体優勝。個人優勝・渡辺。2位佐野、3位山坂。東海総体＝第3位。インハイ＝個人・渡辺ベスト8。神宮奉納全国東西大会＝渡辺ベスト8。東海相撲大会＝団体3位。県会長旗争奪相撲大会＝個人優勝・佐野。2位渡辺。県相撲選手権大会＝優勝・山坂。国体秋季大会＝9位。県東部地区新人大会＝団体優勝。個人・中島優勝。県新人戦＝団体優勝。個人〈1年〉松尾、2位遠藤、3位渡辺。〈2年〉佐野。全国新人相撲選手大会＝準優勝。個人・渡辺優勝矢崎優秀選手賞。▼**野球部**　夏の大会＝シード校。3回戦敗退。新人戦＝2勝3敗▼**柔道部**　東部新人戦＝一部5位、二部2位。東部スポーツ祭＝3位。柔道祭＝東部3位。富士地区大会＝優勝。▼**陸上競技部**　東部新人戦＝優勝。県新人戦＝2位。県駅伝＝3位。東海駅伝＝6位。▼**スケート部**　国体＝松本出場。県スポーツ祭＝二〇〇メートルリレー2位。▼**庭球部**　インハイ東部予選＝団体優勝。新人戦東部、県大会団体優勝。東海大会出場。インターハイ＝菅野・伊藤組、金子・福石組出場。国体県予選＝3位。東海予選＝出場▼**バドミントン部**　全国大会＝ダブルス出場（石川雅巳・篠原尚紀）県大会＝団体3位。個人・ダブルス、石川・篠原組2位。東部大会＝石川2位。新人戦＝佐野・野村組2位。東海4県選抜大会＝佐野・野村組出場。▼**弓道部**　県スポーツ祭＝優勝。インターハイ県大会＝6位。▼**バスケット部**　国体東部予選＝2位。同県予選＝ベスト8。選抜大会東部予選＝4位。同県予選＝ベスト8。▼**卓球部**　東部大会＝団体3位、ダブルス、柴田・鈴木組2位。新橋・若林組ベスト8。シングルス、植松ベスト8。県大会＝団体ベスト8。ダブルス、ベスト8（柴田・鈴木組）。東部新人戦＝柴田3位。▼**剣道部**　インターハイ東部予選＝2位。富士宮市剣道大会＝団体1位・2位。個人1位・2位。黒潮旗武道大会＝8位。富士市スポーツ祭＝団体一位

富士市役所支部

支部長　佐野　範芳

私達が勤めている今の富士市は、昭和四十一年十一月一日当時の吉原市・富士市・鷹岡町が合併し市役所も北に富士山を一望に眺める十階建として建設されて七年、現在市の人口は二十万三千人で市職員数も約二千三百人、我が北嶺会々員もこの合併により九十八名の多くを数えており、市役所一般事務職員から教育委員会、市立吉原商業高校教員、市立中央病院、消防署等各分野にわたりそれぞれの職場において管理職又は中堅職員として活躍をしております。又市職員でつくられている体育・文化の各クラブで中心的な役割りを果し活躍をしている北嶺会会員も多くおります。

北嶺会としての活動は、会員がそれぞれに分散していること、又旧市町が合併して途中で一緒になった等からまとまりに欠けている処がありますが、今後各部等に連絡係をおき、会員同士の連絡を密にすると共に交流の機会を多くし「職場支部」としてのまとまりを図りたいと思っております。富士市では、市職員のうち一般事務職はこの三年新規採用を行っておりませんので北嶺会の新らしい会員がありませんが、願わくば今後多くの北高卒業生が富士市役所を希望されて富士市役所職員となり、それにより職域支部として益々充実し発展する事を期待するものです。

評議員　望月弘之、佐野博男、佐藤都夫

代議員　花田健一

本州製紙 富士地区支部

支部長　武田　幸二

戦後の昭和二十四年八月集中排除法により旧王子製紙は三分割されて、その一社として本州製紙が誕生しました。現在所属工場は、釧路、江戸川、富士、岩淵中津、滋賀、熊野、名古屋化学と各地に分散していますが、今回は北嶺会本州製紙の富士地区支部として、ご紹介致します。

岩淵工場　二〇名
富士工場　一〇五名
富士宮事業所　一三名

評議員　芦沢昇、加藤昭五、渡辺熟、森山宰一、服部章弘、田辺光則

代議員　域内高義　です。

しかし、本社や他工場あるいは関連会社等にも多くの仲間が活躍しています。これからは「仲間」への呼かけの輪を拡げ相互の連繋と結束とを一層深めて、北嶺会の発展に努力したいと思います。

昭和52年度大学合格者数一覧表

学校名		学校名		学校名	
国立大学		工学院大	10	神奈川大	29
筑波大	1	国学院大	1	相模工業大	3
三重大	2	駒沢大	20	東京工芸大	1
高知大	1	芝浦工大	4	横浜商科大	2
長崎大	1	成蹊大	1	金沢工業大	1
宇都宮大	1	成城大	1	松本歯科大	1
信州大	1	上智大	1	愛知学院大	2
山梨大	1	専修大	27	愛知工業大	20
静岡大	10	大正大	1	中京大	4
計	18	大東文化大	12	中部工業大	1
		拓殖大	5	名古屋学院大	2
公立大学		玉川大	2	名古屋商科大	6
高崎経済大	1	中央大	9	日本福祉大	3
都留文化大	1	帝京大	3	名城大	7
計	2	東海大	8	京都産業大	3
		東京経済大	10	立命館大	2
私立大学		東京電機大	4	仏教大	1
仙台大	1	東京農業大	1	大阪学院大	1
流通経済大	1	東京理科大	4	大阪経済法科大	4
足利工業大	1	東京学館大	1	大阪産業大	2
国際商科大	3	皇学洋大	12	大阪商業大	2
城西大	4	東日本大	25	大阪国際大	2
独協大	2	日本体育大	2	大阪西大	1
淑徳大	1	日本教育大	3	花園大	1
千葉敬愛経済大	1	文化政大	18	関西外国語大	2
千葉工業大	11	法政大	1	関西学院大	6
千葉商科大	8	武蔵大	3	近畿大	3
中央学院大	5	武蔵工業大	9	岡山理科大	
青山学院大	2	明治学院大	2		
亜細亜大	13	明治大	1		
桜美林大	3	立教大	1		
北里大	1	立正大	13		
学習院大	1	和光大	1		
慶応義塾大	2	早稲田大	3		
国士館大	1	幾徳工業大	1	計	392

なつかしの 恩師

日原　章先生

（一九・一〜二八・三）
富士宮市西町一二―九
電〈〇五四三〉六―四〇八九

工業二回卒業生、講師の名の下に学校へ居残り組三人のうちの一人。戦中戦後の難しい時代を母校のため恩師を助けてきた。建学の精神に燃え職員生徒の汗のモッコかつぎ、今立派な桜並木を見ても涙が出るという。大宮商業工業から実業高校、更に附設中学、そして県立移管まで勤めた。その後義務教育へ入り、教頭を経て現在県立朝霧野外活動センター所長補佐、郷土の青年教育に社会教育の面から尽力されている。

甲田文男先生

（18・1〜21・2）
富士市入山瀬一七ノ一
電話〈〇五四三〉⑦三三五七

戦事中の教練・体育で苦しい時代を生徒と共に過された先生は今年の七月で六十三歳とか……しかしとてもそのお歳には見えない若々しさで驚いた。その秘けつは欠かさず行う適度の運動との事。

教壇を降りられてから本州製紙に二十年。定年退職後は昨年十月まで田子浦臨海倉庫に七年と頑張り続け現在は奥様と三番目の御子息の三人暮し、懐しい人々の名前を口にして回想にふけっておいでした。

佐野範芳先生

（23・4〜28・3）
富士宮市源道寺一〇七ノ五
電話〈〇五四三〉⑦二七三二

母校北高は工業科第四回卒業の大先輩であり、保健体育の教師として教鞭をとり、特に陸上競技部の指導に力を注がれ多くの名選手を育てた事は衆知の事実でもある。

その後富士市役所に籍を移され各課長を歴任、現在は二市一町の消費者に不可欠の岳南食肉センター場長としてその敏腕をふるわれている。先年健康を害され以来八年間禁酒・禁煙を守っているとか……その他富士市役所の陸上競技部長としても活躍中。益々お元気です。

佐野　栄先生

（23・4〜30・3）
富士宮市大宮一七六五ノ四
電話〈〇五四三〉六―六五六八

先生は、母校富士宮北高等学校に御奉職中、主として化学の教鞭をとられておりました。昭和二十三年当時は戦後日も浅く、まだまだ社会経済の不安定な時代でしたが、持ち前の明るいムードの中でいつもなごやかに生徒と接していた事を想い出します。そして「オットセイ」の愛称で親しまれておりました。

先生は退職後趣味の「謡」に十年のキャリヤを持たれ、踊りの名取りである奥様と共演されるなど悠々自適の昨今であり、現在は富士宮市役所公害対策課に勤務されております。

御家族は、最愛の奥様と長男御夫婦にお孫さん二人そのお孫さんの話になるとそれでなくとも細い目を一層細くして幸福そうです。いつ迄も御健康で御活躍の程お祈り申し上げます。

〈著述紹介〉田中清君の「満州切手」

切手収集は、王者の趣味といわれる位に、趣味の中でも高尚なものです。田中君の切手収集は、美しい切手を美しくながめ愛好する本当のフィラテリーだと思います。彼の収集内容は日本切手が中心で、勿論外国のものも多く、実に見事なものが揃っています。

何故に、彼が「満州切手」に魅了されたか……満州は当時のいくつかの学校で、修学旅行に計画されていたと仄聞しておりますから、ある時は憧れの土地であり又年輩の人には恐ろしい思い出のある処だとも言えるでしょう。

満州国の是非は別として、切手発行の状況を追いながら、事実の推移を眺めるのは非常に興味のあることです。戦後、ほとんどの人が手をつけなかった部分について、専門的な立場から深く研究し、一冊の本にまとめ上げた田中君の努力は高く評価されていいと思います。

（商一卒）

域内睦男先生

（二〇・一〇〜二八・三）
富士宮市大中里六八三
電話（六）五四五六

同級生同志では通称「睦チャン」生徒達には「バチクリ」等と言われたそうであるが、最近四十余坪に増改築した居宅におさまっていい親爺である。北高に八年在職後市内中学を経て、現在上野中学に奉職されている。恬淡寡欲、校長職をあえて求めず、彼の生きざまに人生のわびを感じる。応接間の書棚がヅッしり、頭の毛の薄いのが印象に残った。一女あり静大教育学部三年生。趣味はヘボ碁と山登りという。

告知板

左記の恩師がお亡くなりになられました。

謹んで哀悼の意を表します。

●米山雄次郎先生
昭和22年5月2日から昭和38年6月30日まで16年間ご在職になられました。この間、幾多の同窓生がご厄介になりました。葬儀は1月20日でした。

●塩川福司先生
昭和15年4月1日より同23年3月31日まで8年間ご在職になられました。葬儀は2月6日に行われました。

編集後記

今回から趣を変えて、卒業生の人物往来記をトップに載せる事にした。

扨而次号は母校創立四十周年に当り特集号を考えております。頁数も予算の許す限り余裕のあるものにしたいものです。

今のところ考えている企画としては「母校四十年を語る」座談会、卒業生人物素描、記念講演掲載、母校四十年誌、クラブ活動等ですが、何かユニークな企画提案を編集局までおよせ下さい。（富〈〇五四四二〉七―一二〇五　井出宛でも結構です）

尚北嶺会だより編集に当り、何時も手際よいさばきを見せてくれる川島明氏（商八回卒㈱広研社代表取締役）のいる事を附記します。